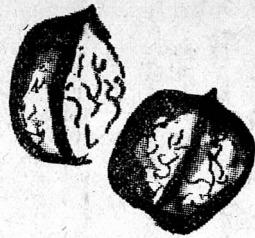


# くるみの栽培について



## はじめに

わが国において樹木立体農業が今日まで余りにも開拓されておつたが、食糧問題が國政の第一義として提唱されると共に、治山・治水が國策の重点なるを再認識されるに至り、穀果樹である「くるみ」「くり」等の栽培の重要性が漸く叫ばれてきた次第である。

樹木立体農法は、土地を高度に立体的に利用すると共に、ことに傾斜地、火山灰地等では降雨と普通作物の耕作による土壤肥料の流亡防止に役立つなど、本農法は幾多の利点をもつてゐる。すなわち、

1 樹木栽培は土壤、肥料の流亡防止に役立つ最上の被覆作物である。

2 反当り収穫物のカロリーは従来の耕作農法に比し反つて高い。

3 樹穀は自給食糧としては勿論、貴重な商品価値を有し、かつ加工業により收入の増大を期待できる。

4 一般作物に比し深根性で、耐旱性大であると共に、冷害に対しても安全である。

5 薪炭の自給に役立つ。

二十年生で一本から約六斗の種実がとれま

わが国には広大な丘陵、山腹の傾斜農耕地帯がありますが、ここにそれぞれ環境に適合する穀果樹類を栽培して、下草に牧草、優良山野草を育成すると共に、樹帶間の斜面に耕種を行う農畜林総合の新嘗農方式を打ち樹でなければ、今後の當農特に東北・北海道のごとき積雪寒冷單作地帯は勿論、現在開拓の斧を振られている地帯の當農の安定は困難である。

ここに穀果樹の一つである『くるみ』について述べることとする。

## くるみ栽培の將來

莫子くるみの需要は、たんに一時の流行的現象でなしに、恒久的産業として伸展する可能性が非常に大きく、良質の脂肪を多く含む点から、油脂食糧の乏しい日本として頗る重要な重宝な果穀と言えます。今、いかに栄養食品として価値が高いものであるかを示すと、第一表の通りである。このほかビタミンBに富んでおります。

また、くるみ栽培の場合の反当り生産熱量について、長野県下でしなのくるみについて調査したものを見ますと、反当り十本植、

すが、その反当り生産熱量は十三万四千カロリーで、小麦、大豆などに比し、それぞれ二乃至四割増となつており、樹下の利用により相当の収入を見ることが出来るので、くるみ栽培がいかに生産性の高いものであるかがうなづかれます。その他、畔畔、宅地、放牧地等の空閑地の高度利用にも適し、そのうえ粗放な栽培にも耐え得るなど多くの長所を具備し、穀実の需要もますます増大しており、欧米への輸出も可能であります。

くるみはくるみ科、くるみ属に属する落葉喬木で、日本に産するものには野生の「おくるみ」「ひめくるみ」と支那から移入された変種である「てうちくるみ」及び「うちくるみ」とアメリカ種のフランケットとの交配種で「しなのぐるみ」の四種類がある。しなのぐるみにはフランケット系一四号まである。

普通栽培されるものは「しなのぐるみ」と「てうちくるみ」であるから、ここでは特に「しなのぐるみ」の栽培について述べることとする。

普通栽培されるものは「しなのぐるみ」は、午旁根であるから、この午旁根を切つて植えた方がよい。根を切らずに植えると、植付後の生育は良いが、結実までに長期間を要し、その収量も少いと言われている。また、くるみは単性花であり、雌雄の花が同時に咲きにくいので、単独ではなく、少くも数本以上群状的に植栽することが結

第一表 成分表

種類	水分			中の中のカロリー	
	くるみ	白米	三元		
くるみ	四二%	三五%	四三%	四七%	一〇〇瓦
白米	三五%	三三%	三三%	三三%	カロリー
三元	三三%	三三%	三三%	三三%	充三
四三%	三三%	三三%	三三%	三三%	四三
五五%	三三%	三三%	三三%	三三%	五五
元三	三三%	三三%	三三%	三三%	元三
七七%	三三%	三三%	三三%	三三%	七七
七七%	三三%	三三%	三三%	三三%	七七

## 植栽方法

適地 冬季の休眠期間は寒気に耐える力が強く、また過湿の害を被ることはありませんが、生育上最も障害を受けるのは秋落葉前と春生育開始後に襲来する霜害である。

くるみは各種の気候風土に適応性はあるが、最も良く育つ所は、表土が深く下層まで通気排水の良い肥沃地である。一般に乾燥地を忌み、適度の湿度を持つ土地を好み、強土の粘土質は過乾の虞れがあり、排水が悪いから避けた方がよい。

植栽時期 植栽時期は秋季落葉後降雪前または春季芽萌芽前が普通である。

植付 植穴は秋季穴掘りを行い、冬季間土壤の風化、殺虫、肥料の分解を促し、習春の植付準備をしておくのがよい。

植付に先立ち植穴に基肥として腐熟堆肥を覆土と良く混ぜても通りにし、その覆土の中に苗木を正しく植えつける。

普通反当り十本内外（六間×五間）の植付がよい。疏植であるから、結実樹齡までは間混作を合うことは勿論必要である。

つぎに注意しなければならないのは、くるみは午旁根であるから、この午旁根を切つて植えた方がよい。根を切らずに植えると、植付後の生育は良いが、結実までに長期間を要し、その収量も少いと言われている。また、くるみは単性花であり、雌雄の花が同時に咲きにくいので、単独ではなく、少くも数本以上群状的に植栽することが結

美も多く安全である。

管理 植付後間作する場合は特に除草の必要はないが、原野に坪植えした場合は、根株の周囲を掘起して次第に拡げてゆき、土壤を膨脹すると共に、年二し三回雑草類を取除く必要がある。

次に施肥であるが、たとえ基肥を施して

も、その後木の成長につれて追肥を増して施さねば良い結果は得られない。植栽後数年間は基肥に準じて年一回施し、十年以後になれば種実の生産が増大してくるので、

一本当たり堆肥五貫、米糠一・五貫、木灰一貫

程度を木の周囲に溝を掘つて与えるとよ

い。

剪定整枝 植付けてから五一六年までは下芽かきを行い、上長生長を促進すると共に、樹型を整えるために適宜の剪定をするが、その後は放任して剪定しない方が良い。く

るみの雄花は二年生の枝につき、雌花は一年生枝の先端につくので、結実する頃になれば枝を切ると果実の収量が減ることになるからである。

新梢は髓が太く、完全に木質化していないので、北海道の中部以北の寒冷地では冬季新芽を保護するため防風設備をすると共に、藁等を巻いて新芽を保護してやると更に。もちろん、成木となつて枝条が特に密生して、陽光が樹冠に入らないようになれば、結実が悪くなるから、この時には重複支柱を立てるのがよい。

もちろん、成木となつて枝条が特に密生して、陽光が樹冠に入らないようになれば、結実が悪くなるから、この時には重複支柱を立てるのがよい。

**病蟲害** くるみの木は樹勢が非常に強いので、病蟲害のために収穫が全くなくなつたり木が枯死するようなことがないが、時にかなりの被害を被ることがある。  
主な病害虫は次のようなものである。

1 クワノカイガラムシ  
2 クスサン(シラガタロウ)  
3 ルリボシカミキリ(テッポウムシ)  
4 シンクイムシ  
5 紫紋羽病  
6 炭疽病

以上のものについての詳述は略するが、くるみは一般に枝が繁茂するので、過密な枝を伐りすかし、樹体内に陽光が十分届くようにしておけば、これらの被害をある程度抑えることができる。

### 收 藏

年次	收量									
	一本當(升)	一本當(升)	一本當(貫)	五年目	六年目	七年目	八年目	九年目	十年目	十一年目
一	一〇五	一〇五	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一七五	一七五	一	一	一	一	一	一	一	一
三	二三〇	二三〇	二	二	二	二	二	二	二	二
四	二八〇	二八〇	三	三	三	三	三	三	三	三
五	三三〇	三三〇	三	三	三	三	三	三	三	三
六	三八〇	三八〇	三	三	三	三	三	三	三	三
七	四三〇	四三〇	四	四	四	四	四	四	四	四
八	四八〇	四八〇	四	四	四	四	四	四	四	四
九	五四〇	五四〇	五	五	五	五	五	五	五	五
十	五六〇	五六〇	五	五	五	五	五	五	五	五
十一	五六〇	五六〇	六	六	六	六	六	六	六	六
十二	六九〇	六九〇	七	七	七	七	七	七	七	七
十三	七九〇	七九〇	七	七	七	七	七	七	七	七
十四	八九〇	八九〇	八	八	八	八	八	八	八	八
十五	九九〇	九九〇	九	九	九	九	九	九	九	九
十六	一〇九〇	一〇九〇	十	十	十	十	十	十	十	十
十七	一一九〇	一一九〇	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
十八	一二九〇	一二九〇	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
十九	一三九〇	一三九〇	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
二十	一四五〇	一四五〇	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
二十一	一四五〇	一四五〇	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
二十二	一四五〇	一四五〇	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
二十三	一四五〇	一四五〇	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七
二十四	一四五〇	一四五〇	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八

果実は成熟して外皮が裂け、自然に落下するから、これを拾い集めればよい。

実際に三割くらい自

然に落下し

たる枝を

ゆり動かし

て落果させ

る。ゆり落

したもので

まだ外皮が

開かないも

のは別に集

めて、日蔭

の湿地か、または穴を掘つて積み重ね、濡

れ薺をかけて置くと数日で軟かくなつて、

手で容易に外皮を取り去ることができる。

無理に若取りすると、果肉に渋味が多くなるつて味が悪くなるから注意せねばならない。

貯藏するには、穀のまま貯藏するのと、

果肉だけとして貯藏する場合とあつて、い

ろいろ研究されているが、低温な倉庫に貯

藏するのがよいと言われている。

果肉の変質を防ぐと共に、くるみ特有の香

氣が抜けないようにする必要であ

る。

(本記事は北海道林産課発行の『くるみ栽培法』の抜萃であります。)

次に、大体標準と見られる反当収量を示すと第二表の通りである。

なお、本表は肥沃な畠地で、管理も良く行われている場合なので、林野に造成する場合には多少減量すると見るべきである。

採取 十月中旬から十一月上旬になれば、

洗滌 外皮を取つた種實には、まだ外皮の表面の皺溝にも外皮の屑が残らぬようになっていて、味が悪くなるから注意せねばならない。流滌するには芋を洗うように笊に入れて攪拌するなどの方法により、種実

に洗い落せば良い。

漂白と乾燥 洗つたくるみに光沢をつけ、外觀を美しくするために漂白を行ふが、漂白

は水洗いしてから、米の磨き汁に一夜夜

ぐらい浸してさらに一度洗滌すればよい。

乾燥は極めて大事な作業で、乾燥が悪いと

せつかくの種実もその価値を失つてしまう。

露を防ぎ、雨天の場合の取り込みの時は、

蒸れないように注意することが大切であ

る。乾燥の可否は果肉の間膜の乾き具合で

決めるが、間膜がよく乾いて、すぐ破れる

ようであれば十分である。